

事項	リンゴ輪紋病に対する果実及び枝の罹病性		
ねらい	本県ではリンゴ輪紋病によるいぼ皮病斑の増加にともない、輪紋病による果実腐敗の発生が懸念されている。そこで本病に対する主要なりんご品種の果実及び枝における罹病性を調査したところ、品種間差異が明らかとなったので、参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 果実における罹病性には品種間差異がみられ、「ふじ」、「つがる」等で発生しやすく、「トキ」、「ジョナゴールド」、「さんさ」等では発生しにくい。</p> <p>2 枝における罹病性には品種間差異がみられ、「ふじ」等で発生しやすく、「陸奥」、「千秋」、「つがる」等では発生しにくい。</p> <p>3 果実と枝における罹病性の品種間差異は、必ずしも一致しない。</p>		
期待される効果	りんご栽培を実施するための品種選定の参考となる。		
利用上の注意事項	<p>1 いぼ皮病斑を削り取る際はりんご生産指導要項を参考に適切に処理する。</p> <p>2 発病の多少に関わらず、被害果は見つけ次第、摘み取る。</p>		
問い合わせ先(電話番号)	りんご研究所 病虫部 (0172-52-2331)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成23～26年度 試験研究成績概要集(りんご)(りんご研究所)		

【根拠となった主要な試験結果】

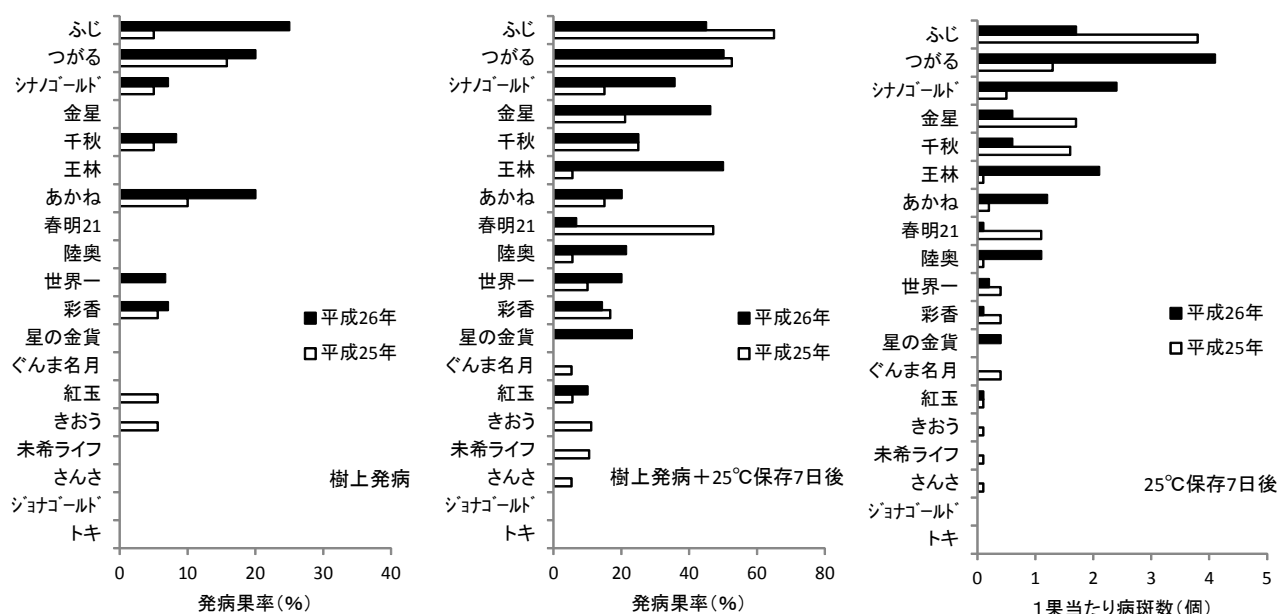
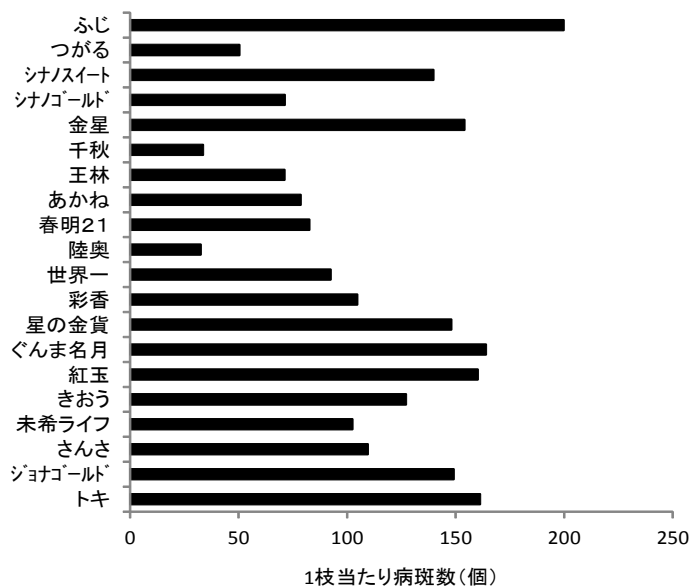


図1 リンゴ輪紋病に対する果実の罹病性 (平成25～26年 青森りんご研)

(注) 平成25年7月17日～8月10日及び平成26年7月17日～8月11日に感染源としていぼ皮病罹病枝を各品種12～20果のつる元に固定して接種した。供試果実は接種前からハトロン紙で被覆し、薬剤散布の影響を回避した。供試果実は適期に収穫して発病状況を調査し、発病のみられない果実については、25°Cで1週間保持した後、再度発病状況を調査した。



- (注) 1 平成22年6月23日から7月13日まで接種棚の下に暴露した。暴露期間の総降水量は149mm
- 2 試験期間中、金網上にいぼ皮病罹病枝を固定して作成した接種棚の下に1年生ポット苗3樹(1樹当たり1～4新梢)を任意に設置して、自然感染させた
- 3 平成23年10月13日に新梢のいぼ皮病斑数を調査して1枝当たりのいぼ皮病斑数を算出した

図2 リンゴ輪紋病に対する枝の罹病性 (平成23年 青森りんご研)